

2025年3月期 第2四半期(中間期) Web 決算説明会 主な質疑応答記録

日時：2024年10月29日(火) 12:00～13:00

出席者：代表取締役 社長執行役員 横田 浩
取締役 常務執行役員 経営企画本部長 井上 智弘

<通期予想について>

Q: 通期予想について、現時点での進捗は計画どおりということだが、社内想定に比べるとどうだったのか。補足資料を見ると減価償却費や研究開発費は当初計画から減少しているし、為替前提も変わっているので、セグメントごとに強弱があると予想できる。

A: 当社は下期型の傾向があるが、特に電子先端材料の売上の比率が下期に寄っている。お客様と通期の数量を決めている中で、下期への配分が多くなっている。多結晶シリコンとICケミカルは下期型の傾向が強いが、特に多結晶シリコンは下期に集中している。
利益面については、当初見込みと比べ、電子先端材料の進捗がプラスなのに対し、化成品とセメントがマイナス傾向。

Q: ライフサイエンスの進捗はどうか。

A: 原薬・中間体、診断システムは当初見通しよりマイナス傾向。一方、メガネレンズ材料が好調であり、歯科器材も引き続き増量傾向なので、通期ではプラス方向に収束するとみている。
鹿島工場の増設について、自動化は若干遅れている。当初、今年10月からスマート工場の立ち上げとしていたが、機器搬入の遅れ等があり本格稼動は2025年2月からを予定。すでに納入した設備は10月から少しづつ動き出しており、2月以降フルに寄与する形。

<中期経営計画2025の達成について>

Q: 来期は中期経営計画2025の最終年度となるが、売上高4,000億円、営業利益450億円達成に向けての手ごたえはどうか。

A: 基本的には達成できるという手ごたえがある。特に化成品、セメント、ライフサイエンスは計画どおりに進捗する見込み。
あとは電子先端材料がどこまで仕上がるかがポイント。半導体業界全体にそこまで力強さはないが、当社は先端部分でシェアをいただいている関係で、全体感よりは早く回復すると見込んでいる。
ウエハー需要で見ると、SEMIの統計では、ウエハーの出荷面積は2022年が145億平方インチ、2023年が124億平方インチで2024年もおおむねステイという情報が出ている。一方、我々のお客様とのお話では2023年を底として、2022年をピークとすると、2024年はピークとボトムの中間まで戻してきている感覚がある。2026-2027年がウエハーのピークといわれているが、我々は1年早くそのレベルに到達できるとみており、電子先端材料の売上・利益も計画を達成できる見込み。

以上